

# 京都女子大学

→ KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

## 全学共通のキャリア教育科目と学部教育が連動。 多様な女性の生き方を踏まえ、 1回生次から一貫した キャリア教育を実践

100年以上の歴史を誇る京都女子大学。仏教精神に基づく人間教育とともに、自立し、社会に貢献できる女性の育成に力を注いできた同大学は、毎年幅広い分野に卒業生を送り出している。社会のさまざまな分野で女性の躍進が期待されている今、同大学がどのようなキャリア教育に取り組んでいるのかをレポートしよう。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／二村 海

### 2011年には法学部を開設し、 社会科学系の教育も拡充

京都女子大学は学園創始以来、心と知の全人的教育に取り組む伝統を大切にしながら、時代のニーズに対応した人材育成に取り組んでいる。

1949年(昭和24年)の大学設立当初は文学部と家政学部でスタート。2004年には文学部教育学科と家政学部児童

学科を改組して発達教育学部を設置。文学・教育・家政の分野では一貫して多数の人材を社会に送り出してきた。

また、2000年には現代社会学部を、2011年には法学部を新たに開設(図1)。社会科学系の教育に力を入れることで、近年はより幅広く企業社会で活躍できる女性人材の育成にも努めている。2014年3月卒業生の就職率は96.4%(※)と全国平均と比べても高く、「就職に強い京女」の定評を得ている。

ただし、女性のライフコースが多様化するなかで、就職以上に問題になるのがその後の生き方。そこで重要になるのが女子学生へのキャリア教育だ。

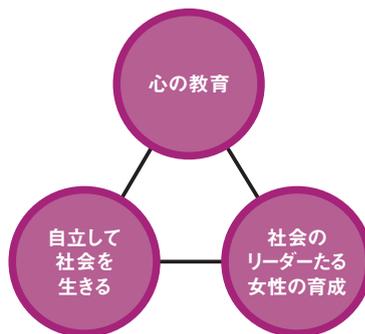
### 自立した女性、社会の リーダーたる女性を育成

京都女子大学は「心の教育」「自立して社会を生きる」「社会のリーダーたる女性の育成」を理念に掲げ(図2)、多角的なキャリア教育に取り組んでいる。その柱の一つがキャリア教育科目「キャリア開発I~IV」(図3)。この科目を通して、早い段

※就職希望者数1153人



図2 京都女子大学のキャリア教育の理念



階から自分の興味・関心を探りながら、大学で学ぶことの意味を理解。学部での学びと自身の将来をリンクさせて、職業観を養い、将来のキャリアビジョンを考えていく。また、進路・就職課とは別に設けられたキャリアセンターではキャリア教育科目と連携して、一人ひとりのキャリア意識や目標に応じたサポートを展開している。

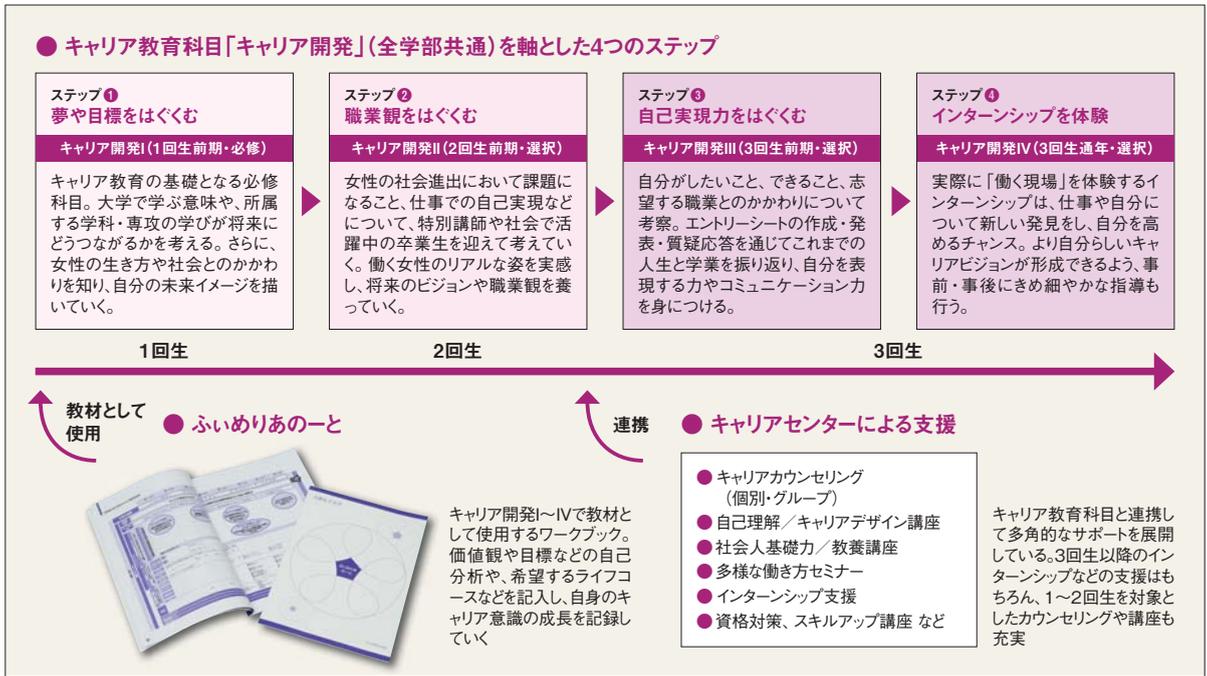
さらに、各学部における教育も、キャリア意識の醸成やこれからの社会を生き抜く力を養成することを重視している。

全学部に通じる特色は、1回生から行われる少人数教育。特定のテーマについて自分自身で研究、発表に取り組

図1 京都女子大学の学部・学科・専攻

文学部	国文学科
	英文学科
	史学科
発達教育学部	教育学科 教育学専攻
	教育学科 心理学専攻
	教育学科 音楽教育学専攻
	児童学科
家政学部	食物栄養学科
	生活造形学科
	生活福祉学科
現代社会学部	現代社会学科
法学部	法学科

図3 京都女子大学のキャリア教育・支援の取り組み



み、グループ討議を繰り返すことで、考える力や伝える力を養っていく。

また、時代の動きに対応したカリキュラムの見直しなどにも積極的だ。現代社会学部の例を見てみよう。

「27年度からカリキュラムを改定し、5つのクラスターと4つのプログラムを設けます(図4)。自分の興味・関心に応じて幅広くアカデミックな知識を学び、それを土台に国際理解、情報などのプログラムで実践的な力を養います。企業で活躍する女性、管理職を目指す女性を育成していこ

うというのがその狙いです」(同学部/竹安栄子教授)

**社会の構成員の一人であることを理解する**

もう一つのポイントは、「ジェンダーと現代社会」を必修科目としたこと。この点には同学部の女性のキャリアに対する基本的な考え方が反映されている。

「キャリアを考えるうえで大切なのは、自分が社会の構成員の一人であることを

理解し、自分が生きる社会について知ること。社会がどんな課題を抱えていて、そこで自分にどんな貢献ができるのかを考えてこそ、さまざまな目標や選択肢が生まれてくるのです」(竹安教授)

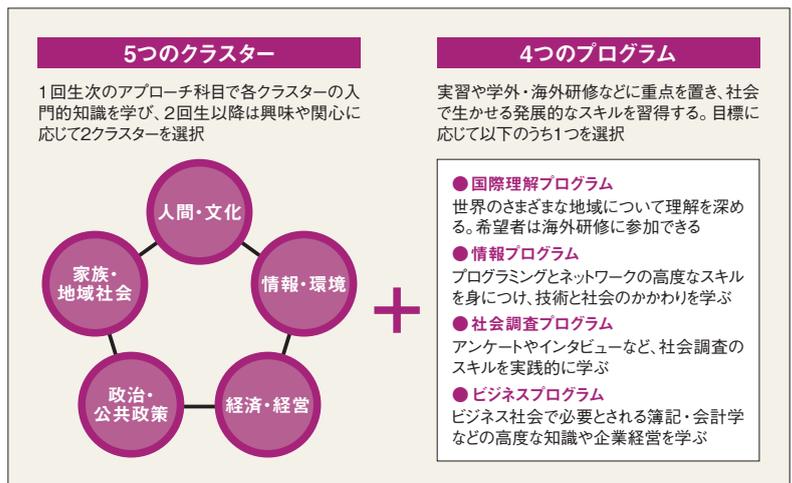
法律・制度・各種調査や国際比較などを通して日本の女性が置かれた状況を科学的見地から理解することが、女性が自立して生きていく基礎となるという。

「女性の生き方は多様。社会を知り、自分の可能性を知ったうえで専業主婦を選び、地域社会に貢献するののも一つの生き



① 現代社会学部 竹安栄子教授

図4 現代社会学部の新カリキュラム



方です。『よき市民』を育てる——それが私たちの目的なのです」(竹安教授)

## 卒業生との幅広く深いネットワークも財産

さらに同大学の強みとなっているのが、すでに社会に出て活躍している卒業生とのネットワークだ。前出の「キャリア開発」でも先輩たちの話を聞く機会は設けられているが、教授の個人的なつながりから卒業生がゼミを訪れることも。

「女性のキャリアに関する悩みはなかなか相談相手もないですから、私に連絡してくる卒業生は多いですね。自分から後輩たちに自分の経験を話したいと言ってくる卒業生もいます」(竹安教授)

では、一連のキャリア教育は学生をどう成長させるのだろうか？ 金融機関への就職が決まったばかりの4回生、古市恵里子さんに話を聞いてみよう。

「大学に進学した当初は、『将来はずっと仕事をしていきたい』という思いはありましたが、何をやりたいのかはまだ定まっていなくて。意識が変わるきっかけになったのは1回生の前期に受けた『キャリア開発I』の授業ですね。何のために大学に入ったのか、自分は何に興味があるのかななどを、ふいめりあの一とに書いて、グループで議論するなかで、少しずつ大学での学びと自分の将来との結びつきを理解するようになりました」

## ゼミでの学びを通して将来の進路をイメージ

さらに1、2回生で半期ずつ4つのゼミを経験。このゼミでの学びがキャリア教育科目での気づきとリンクして、家族社会学、地域社会学への関心が深まった。

「3回生で竹安先生の地域社会学のゼミに入り、農村の高齢者の生活を研究しました。インタビューをすると、高齢者の方々の多くが将来に不安を感じていたんです。それを知って、社会で不安を感じながら生きている人たちを生活に密着した面から支える仕事をしたいと考えようになりました」(古市さん)

そんな古市さんが、今、力を入れて取り組んでいるのが、今年から同大学が実施する「Woman Project」だ。大学の広報活動の一環として社会で活躍する卒業生に会いに行くプロジェクトを通して、古市さんはさらにさまざまな気づきを得た。

「今年1月にプロジェクトが始まって、最初の活動が社会で活躍している先輩たちへのインタビュー。私はちょうど就職活動の時期に、鉄道系の設備・警備関連企業で働いている先輩と、都市銀行で働いている先輩にお話を伺いました。総合職として警備員の経験を積まれている先輩は自分をしっかりと持っているのがすごく印象的でした。都市銀行の先輩からは銀行業務の魅力を伺って、それが就職先を決める後押しにもなったんです。



現代社会学部4回生 古市恵里子さん  
(福岡県立香椎高校出身)

現場で働いている先輩たちのお話や姿は本当に刺激的で、それまで漠然としていた自分の将来像が具体的にになっていくのを感じました」(古市さん)

## Woman Projectを通して企画・実行・改善を経験

ロールモデルとなる大学の先輩たちの活躍をオープンキャンパスで高校生に伝えるのもWoman Projectの取り組みの一つ。しかし、まだ将来のことまで考えることが難しい高校生にその魅力をどう伝えるかには苦勞したと話す。

「3月のオープンキャンパスでは、私たちがなかなかうまくしゃべれなくて高校生の気持ちをつかむことができなかったんです。でも、一度経験して課題はわかったので、次回からは、相手が何を求めているのかをしっかりと考えて、もっと伝え方を工夫しようってみんなで話し合っています」(古市さん)

\*

21世紀の社会を担う女性を育成するために、さまざまな角度からキャリア教育に取り組む京都女子大学。リーダー層としての活躍を目指す女子生徒にとって、まだやりたいことが見つからない女子生徒にとっても、将来のキャリアを切り拓いていくための大切な土台を築くことができる4年間でそこにはある。

### Woman Projectとは？

#### 希望する学生がチームで大学の広報活動にチャレンジ！

学生が自分たちの手で大学の広報活動に取り組むプロジェクト。今年1月に発足し、1回生から4回生まで希望者20人強が集まって活動している。現在は卒業生インタビューをWebサイトにまとめ、オープンキャンパスでその先輩たちの活躍を紹介するフォーラムを開催するなどの取り組みが進行中。今後もメンバー発のアイデアでさまざまな企画に挑戦する予定だ。



「Woman Project特設サイト」

→ <http://shingakunet.com/school/9000757987/9000818362/special/index.html>